

日本での2年間

私が初めて日本に来てから、すでに**2年以上**がたちました。日本はたくさんのことを学んだ美しい国です。今では、日本語も少し上達して、毎日買い物をしたり、質問をしたり、知らない人と会話したり、最低限の生活ができるレベルになってきました。

しかし、まだ理解できないことも多くあります。例えば、人々の感情表現です。私の出身国のチュニジアでは、ほとんどの地中海諸国と同様に、人々の感情を顔の表情で捉えるのは非常に簡単です。人々は怒ったと思えば、すぐに和解決します。みんな表情豊かで、コミュニケーションは目線、しかめっ面、身振りを通して行われます。人々は話をすることも大好きで、一人でいることに耐えられません。チュニジアのコーヒーショップに一人で行けば、誰かが隣に来て、自身の身の上話をして去っていくのも、珍しいことではありません。



カフェは、会議、勉強、さらには専門家の会議のためのスペースになっています。チュニジアには、日本の公民館のように、国が設計し、さまざまな活動に専念するスペースがありません。だからこそカフェはチュニジア人にとって重要な場所になっていて、様々な種類のものがあります。例えば、学生向けのもの、ステージ付きカフェ、テーマカフェ、文化カフェなどがあります。テーマカフェというのは、ハリーポッターやワンピースなど、特定の世界観を再現したカフェです。文化カフェでは、詩の朗読会やアートイベントを催します。私たちはそこで何時間も見知らぬ人とおしゃべりしたり、音楽を聴いたり、勉強したり、都会での生活や出会いを楽しんだりしています。



しかし、私の国とは反対で、日本では感情を表すことは子どもっぽいと考えられていることを学びました。これは武士の文化に部分的に関係しているからでしょう。自制心、規律、適合性は、日本社会で大切にされている資質です。世界的に、これらの資質は、仕事で良いパフォーマンスを発揮し、システムを維持するために重要ですが、私が育ったこれらすべての西洋の価値観、自分の個性、自分の特異性、個性を表現する必要はありません。だから、日本の社会規範に従って自分を表現するのは難しいと感じることもあります。

私は今まで色々な国で生活しましたが、日本はまた違う文化を持っていて、ここで生きていくことは新しい学びであり、チャレンジでもあります。私なりの視点で感じた「日本文化」を、海外に発信していく際のヒントとして生かしていくことに喜びも感じています。

